

第1分科会

「土木遺産としての万世大路を楽しむ」

万世大路を多くの皆様楽しんで頂くために、栗子峠の歴史を振り返り、見学者や保存維持活動の現状を報告し、今後の進め方について考えていきます。

- コーディネーター **後藤光亀(元東北大学准教授、公益社団法人土木学会東北支部選奨土木遺産選考委員会副委員長)**
 アドバイザー **梅津幸保(歴史の道土木遺産萬世大路保存会会長)**
 パネリスト **鹿摩貞男(万世大路研究会代表代行) 岡部達也(福島市万世大路を守る会代表)**
山口裕子(万世大路研究会副代表)

後藤光亀氏(以下後藤) はじめに、私の方から公益社団法人土木学会の選奨土木遺産の概要と、万世大路を認定した背景について紹介します。認定にいたる経緯については、後ほども触れたいと思います。



写真-1① 第1分科会

まず公益社団法人土木学会「選奨土木遺産」とは何かについて簡単に紹介します。

現存で築50年以上の土木遺産について、全国で毎年20件程度認定し、認定書と銘板を差しあげています。

選考基準は、技術や景観デザインが優れていて、なおかつ地域に貢献し、地域の方々に愛されていることとなっています。今回テーマの万世大路は、特に皆様に愛されているということを強く感じます。



写真-1②土木遺産認定式(米沢)

明治10年代の三大近代土木遺産(野蒜築港・安積疏水・万世大路)のうち最初に完成したのが万世大路ということで、非常に価値が高いと思います。万世大路は2012年10月、震災の翌年に認定されました。米沢では、その時に認定フォーラムを開催しています。また福島側



写真-1③ 銘板

では、翌年に開催させていただきました(写真-1①②③)。

次にパネラーの鹿摩さんに万世大路について、その歴史を含めて紹介していただきたいと思います。

鹿摩貞男氏(以下鹿摩) 万世大路とは、福島と米沢を結ぶ現在の国道13号のことで当時約50kmありました。

万世大路は3代に亘って事業が実施されておりますのでそれぞれの概要と整備効果、万世大路の名称の由来等について紹介していきます。

初めに、初代の万世大路は、事実上の国家プロジェクトとして福島・山形両県により建設されたもので、約5年間をかけて明治14年[1881年]9月に完成しました。10月3日に明治天皇をお迎えして開通式が行われています。この新しい道路は、何といたっても荷車が通れるようになったことが特長といえます。前身とな



写真-2①板谷街道

る板谷街道では荷車が通れませんでした(写真-2①)。福島～米沢の所要時間が往復三日となり、物流が拡大、通行人が毎日100人、荷車類が40台となっています。

次は、2代目の万世大路です。当時の内務省が山岳部

の一部約14kmを改修したもので、昭和12年に完成しました。その結果、自動車も通れるようになり、福島～米沢の所要時間が片道2時間20分と大幅に短縮されています。ただし冬期間は通行止めでした。

次は、3代目の万世大路、つまり現在の国道13号です。当時の建設省が約5年をかけて昭和41年[1966年]に完



成、山岳部約20kmの道路を新しく整備しています。これにより急勾配・急カーブ・砂利道が解消され、冬期間を含め通年で自動車が通行できるようになりました。交通

写真-2②旧国道(上)と新国道(下) 量は開通時点で約3,000台、物流・人的交流が拡大しました。平成29年の交通量は約8,000台になっていました(写真-2②)。

明治開通の栗子新道は後に**万世大路**と称することとなりますが、これは明治15年2月に明治天皇から下賜された正式名称です。その万世大路の典拠は、「昭和」や「平成」の年号の出典にもなっている中国の歴史書『尚書』(書経)です。なお、万世大路の意義を示した明確な資料は見当りませんが、『尚書』からの引用箇所「万世永頼」の趣旨に鑑み「幾世代(万世)に亘って永く頼れる道路(大路)になれ」との願いが込められたものと考えられています。

後藤 続きまして岡部さんです。ボランティアで現在も万世大路の修復を続けられておられます。

岡部達也氏(以下岡部) ボランティアとして万世大路を守る活動をしている理由と活動状況について報告します。活動している理由の1番目は、そこに万世大路があるからです。2番目は、明治時代の万世大路の隧道は日本で初めての道路トンネルでこれを守りたいと思いました。3番目は、所期の役目を終わっても、先人の偉業を後世に遺したいということです。

その活動の理念についてお話しします。基本的な考え方の1番目はボランティアであるということです。自主的な活動、自助努力で続けています。2番目として、行政からの補助は受けないということがありません。現在、自費活動です。出来る範囲で無理せず長く続けたいと考えています。3番目は、過剰なPRはしないということです。



写真-3① 倒木の除去

次に、我々のボランティア活動は平成26年度から実施

しておりますのでその一端を紹介しします。まず雑木雑草の刈り払いや倒木の処理、側溝清掃など定例的な維持管理を毎年おこなっています(写真-3①)。



写真-3② 崩落状況

定例作業の他に各種の補修作業を実施しておりますが一例を紹介しします。二ツ小屋隧道米沢側坑口では、穴のあいたトンネル天井から土石が崩落していて、幅を3分の2くらい塞いでいましたのでこれを除去しています。また中間付近でも崩落箇所があり除去しています(写真-3②)。除去した土石は、近くの旧道崩落箇所の仮復旧の盛土に使いました。その箇所は、平成28年8月に大雨が降り、旧道の一部が崩落し通行できなくなったところで、仮迂回路をすぐ脇に造り復旧しています。現在作業中なのは、栗子隧道前の崩落土砂を撤去運搬し大平集落跡の200m程先にある崩落箇所へ盛土するというをおこなっています。また、危険箇所にバリケードを設置する作業なども実施しています。

後藤 次に、山口さん、お願いします。

山口裕子氏(以下山口) 万世大路の魅力ということになりますが、まずマニアックな視点があると思います。マニアックに掘り下げていく楽しさがあります。次に、現地を見て、ほんとにああすごいと圧倒されその素晴らしさを感じることができるということです。私が感じたその魅力のあるところを幾つか紹介しします。まず、何とんでも二ツ小屋隧道の重厚感のある美しい坑口には圧倒されます。現代のトンネルでは感じられないものです。

次に、これもまた見ると感動する県境標があります。栗子隧道の福島側から400mくらい入ったところにあります。大きさは20×50cm程度かなというところです(写真-4①)。



写真-4① 県境界標

次に撮影ポイントも大切だと思います。その定番として明治期初代栗子隧道山形側坑口の中から外を写すショットというのがあります



写真-4② 栗子隧道内部から望む

(写真-4②)。人力掘削のノミ跡の残る岩肌の写真も撮れます。新沢橋も定番です。この橋、現役でもおかしくないくらいの立派な鉄筋コンクリートアーチ橋です(写真-4③)。



写真-4③ 新沢橋

最後に、土木構造物ばかりでなく現道沿いの植物もそれぞれ四季折々に文字通りに花を添えてくれています。タニウツギや貴重なシラネアオイ、

一番有名なのはトリカブト、これは日本三大有毒植物ということですが紫の烏帽子形の綺麗な花を咲かせます。

後藤 パネラーの皆さんから前半の話をうかがったところですが、アドバイザーの米沢の梅津さん、報告等願います。

梅津幸保氏(以下梅津) 米沢の方では、萬世大路保存会ということで活動をしていますので、若干紹介させていただきます。萬世大路保存会は、米沢市の万世町全戸加入の組織となっています。主な活動として、年2回の機関紙発行、それから万世大路の散策が安全にできるように、倒木



写真-5① 倒木処理、除草



写真-5② 栗子隧道を案内

処理や草刈などをおこない現地案内しています(写真-5①②)。併せて、国道13号沿いにある萬世大路記念碑公園についても、草刈りなどを実施しております。

後藤 ここから後半になりますが、ここで土木遺産認定の経緯について若干ふれながら、楽しみ方について提案させていただきます。

土木学会土木遺産の認定経緯をみますと、2000年に野蒜築港はすぐ認定され、2002年に安積疏水もすぐに認定されました。しかし、万世大路は延長が長く管理者問題もあって、認定になかなかどり着けませんでした。それで、国土交通省の福島・山形河川国道事務所にお願ひし、結果的に福島・山形の両県の担当となり、ようやく認定にこぎつけたという経緯があります。認定するのに10年以上かかりました。

万世大路もそうなのですが、土木構造物だけじゃなくて、さまざまなものと連携しながら楽しむという動きがあります。一例を紹介ししますと、選奨土木遺産になっている西根堰の伊達西根堰土地改良区の方々とは、毎年福島県桑折町内の花々を愛でながら名所を散策するという旅めぐりコースが企画されています。途中で桃の摘花作業を手伝い収穫時には桃を食べ放題にさせていただくなど色々な交流をさせていただいております(写真-6)。



写真-6 旅めぐりコース追分(桑折町)

次に、鹿摩さんから万世大路の楽しみ方、ということで紹介させていただきます。

鹿摩 万世大路を楽しむということで、見所を紹介してまいります。最初は、やはり栗子隧道の米沢側になるのかなと思います。万世大路は廃道の聖地といわれておりますけれどもその象徴的な場所になります。明治14年9月に完成したトンネル坑口と、昭和11年〔1936年〕8月に完成した坑口が並列して残存しています。なぜ併設さ

れることになったかという、明治の隧道は坑口から 60 mほどが 23 度「くの字」に折れ曲がっていましたが、昭和の改修工事の際にその「くの字」を真っすぐにしたために、旧隧道が坑口から 60m分が残存することとなったのです。明治の隧道がなぜ「くの字」になっているのか、諸説あるものの実は、坑口位置を間違えて工事に取りかかってしてしまったというのが真相のようです。つまり正しい位置は、元々昭和の坑口位置だったということになります(写真-7①)。



二つ目は、萬世大路記念碑公園が国道 13 号の米沢市刈安にある国土交通省除雪ステーションに併設されており、あちこちにあった万世大路関連の石碑類をこの公園に集めたものです。

三つ目は、重厚美しい坑門の二ツ小屋隧道です。ここには冬には巨大な氷柱が出現しており、皆さん楽しんでいただいています(写真-7②③)。



写真-7② 二ツ小屋隧道

四つ目として、新沢橋も見所になります(写真-4③参照)。



写真-7③ 巨大氷柱

五つ目は旧大滝集落跡です。この集落跡には明治 14 年 10 月 3 日開通後、福島へ向かう途中明治天皇が御小憩された旧中屋旅館の建物が現存しており、旧住民(大滝会)が大滝地区の環境整備を図りつつ保存しています。

最後に、明治時代の絵師菅原白龍の栗子隧道十二景「栗嶺奇観」の中には、福島県側は 11 箇所描かれています。山神橋のたもとにある「下山神の石門」といわれる切り通しのところ 1 箇所(福島県立図書館所蔵)だけです。貴重なところなので簡単に行けますから是非見ていただきたいと思ひます(写真-7④)。



写真-7④ 下山神の石門(福島県立図書館所蔵)

後藤 それでは、岡部さんから、万世大路保存の為に新たな展開をどうされるのか、お願いします。

岡部 活動を進める上で特に大きな課題はありませんが、強いていえばまずは活動資金ということになるかと思ひます。2 番目は、将来的に現在の活動が継続されるのかということです。今後、活動家を育成していく必要があると考えています。3 番目として、万世大路というのは昭和の大改修区間だけではないので、例えば新沢橋の手前、或いは円部とか杉ノ平とか大滝などにも万世大路があり、大滝地区を除くと相当荒れています。



写真-8 崩壊箇所

今後の進め方や目標は何なのかという

ことですが、まず 1 番目は大平集落跡付近崩壊箇所の復旧です(写真-8)。

2 番目は、烏川橋付近から栗子隧道までの区間の立木伐採・路面整正などをおこないます。

3 番目は、新沢橋から、東栗子トンネルからの旧道連絡路までの区間の路面整正をおこないます。

我が万世大路は永久に不滅です。名前は勿論、現地も名実共に遺していきたいと考えています。

後藤 それでは、山口さんお願いします。

山口 魅力ある万世大路の提案ということで、多くの人に関心を持っていただき見学してもらうにはどうすればよいか私見を述べさせていただきます。現在は、万世大路を歩く会ですとか講座とかが開かれてきて知名度が上がってきていると思います。ただ、地域にそういう資産があるということが、あらゆる世代に浸透しているのかなと考えると時は若干不十分なところがあるのではないかと思っています。それで、万世大路に関心を持って本日参加していただいた皆様以外の方々にも関心を持っていただきたいということで、保護者を含め子供たちに何かできないかなと考えています。子供の頃に見たり聞いたりしたことが印象に残るだけでも十分だと思いますし、子供たちの経験として記憶に残る程度で良いと考えます。

また、多くの人に見学し楽しんで貰うためには、栗子峠の歴史や土木構造物の遺構とかについて説明してくれる案内人が必要になると思います。

後藤 万世大路に関して、新しい情報が最近になって集まりつつあるようです。梅津さんに情報提供をして頂きたいと思ひます。

梅津 新たな情報ですが、隧道工事に囚人達が労役したということが分かりました。明治 10 年に西南の役があり、その反乱で捕まった鹿児島県士族が 1000 人位いたそうで、全国の監獄に収監されています。山形にも来ておりますが野村綱雄という囚人がいて、『山形流謫(るたく)日誌』というものを書き残しています。その中に道路(万世大路)工事に従事するなど三島の山形県政に協力したことが記されています。囚人達は、三島の先輩同僚たちだったわけですが、万世大路の道路工事に従事したという新たな事実が判明しましたので紹介しました。

後藤 おわりになりますますがまとめを兼ねて、今後の万世大路の楽しみ方等について提案してみたいと思ひます。

東北の土木学会土木遺産全部を見て回るということになるとなかなか難しいですけれども、土木遺産を含めてそれはメインでなくても結構ですから、先に報告したようにみんなで遊べるような旅ルートができないかというのが一つの提案です。今後とも万世大路に関しては、いろいろ新たなネタが出てくると思ひますので、ぜひ連携してやっていきたいなと考えています。

以上で第 1 分科会を終了させていただきます。